

「測量の日」における功労者感謝状贈呈対象者及び贈呈理由

今年度は、以下の個人1名、団体3者の方々に感謝状を贈呈します。

(五十音順 敬称略)

【個人】

◆川瀬^{かわせ}正樹^{まさき}（広島修道大学 商学部教授）

川瀬正樹氏は、平成27年度から地理空間情報産学官中国地区連携協議会の座長を務め、協議会の運営及び協議会を通じた産学官間の情報共有、地理空間情報の活用促進に多大な貢献をされている。

また、同年度から地理情報システム学会中国支部の支部長を務め、その活動として小学生から大学生を対象に「ヒロシマ被爆体験を次世代に継承するための原爆痕跡地図作成 GIS ワークショップ」を開催し、広島市内の被爆痕跡をデジタル地図に取りまとめる平和学習に継続的に取り組むなど、地理空間情報技術の普及啓発に努められた。

勤務する広島修道大学では都市地理学、経済地理学、交通地理学などの分野から地図や地理空間情報を取り入れた教育活動が行われている。また、地域住民の防災意識向上を目的とした活動に取り組まれるなどの地域貢献をされている。

以上のように、氏は地理空間情報技術の活用促進、普及・啓発に多大な貢献をされているほか、人材育成や地域活動にもご尽力されている。

【団体】

◆一般社団法人 災害伝承普及協会（代表理事^{しょうざん} 承山^{りお} 理央）

災害伝承普及協会は令和2年1月に設立され、「みんなの心をつないで防ぐ」をコンセプトに、Webサイト「災害伝承ラボ」やブログ「自然災害伝承碑めぐり」のほか、SNS、イベント等を通じて、防災や心理学の観点から災害伝承の重要性を発信している団体である。

令和4年からは、避難行動の研究に取り組む中で率先避難の有効性、災害伝承による記憶と人による声かけの大切さに気づき、全国各地にある自然災害伝承碑を情報発信している。「みんなでつくる巡り記録地図」プロジェクトでは、自然災害伝承碑を訪れた参加者が撮影した写真や訪問時のエピソードを地図にまとめるなど、参加者と一体となり自然災害伝承碑の普及に関する取組を行っている。

また、民間企業と協力しながら、2025年に開催される大阪・関西万博に向けた「TEAM EXPO 2025 共創チャレンジ」にも取り組んでおり、その一環で自然災害伝承碑スタンプラリー「伝承碑バトンQ」を継続的に開催し、小学生から80代まで幅広い年代層の参加者に対して災害伝承の重要性を伝えている。

これらの取組は、地域住民が過去の災害を知り、自身の防災意識を高め、避難行動に繋げるとともに災害を伝承する力を向上させることに多大な貢献をされている。

◆一般社団法人 東京都測量設計業協会 基準点研究部会（代表 ^{たかぎし}高岸 ^{すずむ}且）

東京都測量設計業協会基準点研究部会は、国土を支えた測量技術を親しみやすく分かりやすく伝え、測量技術の社会への貢献をアピールし、測量のイメージアップを図っている。

特に、三角点や水準点の設置年、所在、概要等を紹介した「基準点カード」は、平成 28 年に作成が開始され、8 年間で 73 種類合計 8 万 4 千枚を発行し、近代測量 150 年記念事業のイベントにも活用されているほか、平成 31 年にはインバウンドに対応するため日本水準原点、日本経緯度原点など 6 種類を英語版で作成するなど、基準点に対する理解と関心を高めるためにご尽力されている。

また、地図をもとに各地の基準点を巡る「基準点インフラツーリズム」は子供から大人まで参加しており、広く地理空間情報の活用推進に寄与されている。

このような取組は、測量や地図の普及・啓発に多大な貢献をされており、その功績は極めて大きい。

◆伊能忠敬笹山領探索の会（会長 ^{かがお}加賀尾 ^{こういち}宏一）

伊能忠敬笹山領探索の会は、「伊能忠敬笹山領測量」の史実を研究するため平成 23 年に結成し活動を開始した。

平成 24 年からは地域の小学校や、団体から依頼を受け、毎年出前教室を開催し、伊能忠敬を通して学校教育、社会教育へ貢献されている。

また、伊能図を使用した展示イベントを開催し、測量について普及啓発を行われているほか、笹山領内の要所 12 箇所に標柱「伊能忠敬笹山領測量の道」を建立し、測量の道を歩く会などを開催するなど歴史街道を活かした豊かな地域づくりを行われている。

このような取組は、測量や地図の普及・啓発に多大な貢献をされており、その功績は極めて大きい。